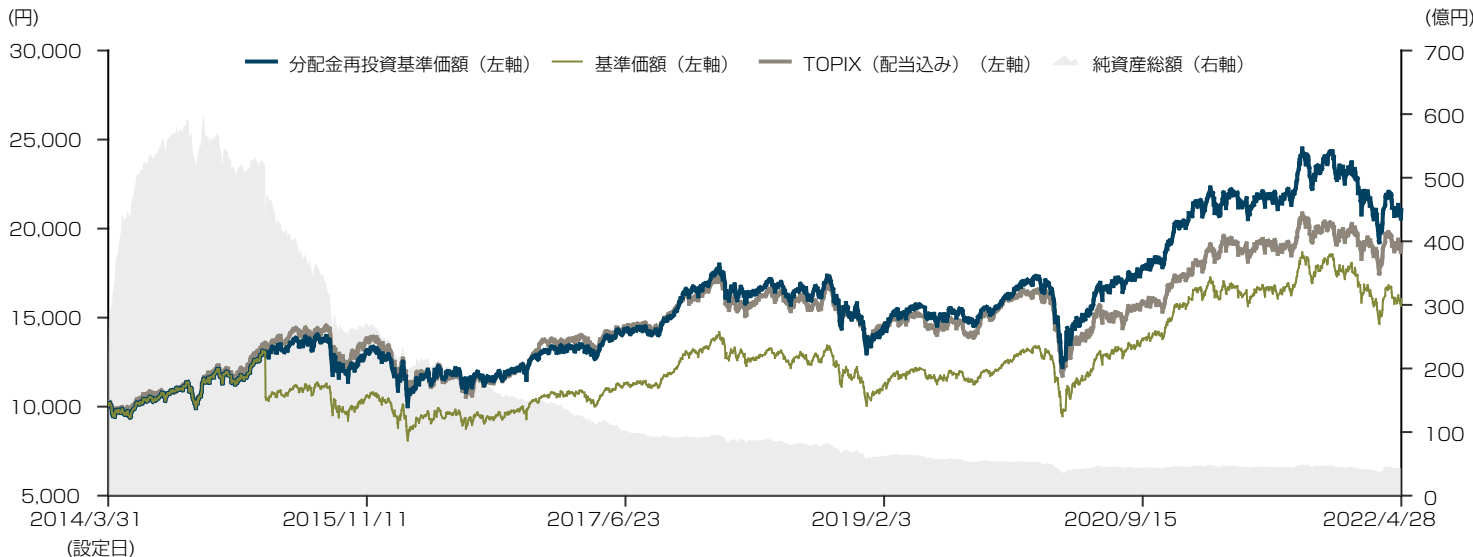


## 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

追加型投信 / 国内 / 株式

## 基準価額・純資産総額等の推移



## 騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
■ ファンド	-3.6%	-1.9%	-9.9%	-0.7%	34.1%	57.0%	110.6%
■ TOPIX (配当込み)	-2.4%	1.4%	-3.8%	2.4%	26.0%	39.1%	90.9%

- ・基準価額は、信託報酬控除後です。分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。
- ・ベンチマークはTOPIX (配当込み) を採用し、「基準価額・純資産総額等の推移」におけるTOPIX (配当込み) は、設定日の前営業日を10,000として指数化しています。
- ・騰落率は、分配金再投資基準価額にて計算しています。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
- ・ベンチマークの設定来の騰落率は、設定日の前営業日を基準値としています。

## ファンド情報

基準価額	16,042円
純資産総額	44.1億円

## ポートフォリオ情報

銘柄数	69
資産構成比率	100.0%
株式組入比率	97.5%
投資信託組入比率	-
先物等組入比率	-
コールローンその他	2.5%

## 過去5期の分配金実績

第4期	2018年3月	250円
第5期	2019年3月	0円
第6期	2020年3月	0円
第7期	2021年3月	250円
第8期	2022年3月	0円
	設定来累計	3,250円

- ・「ポートフォリオ情報」はマザーファンドのデータです。
- ・投資信託には不動産投資信託 (REIT) も含まれます。
- ・「ポートフォリオ情報」における比率は純資産総額比です。
- ・売買等の計上タイミングの影響や市場環境の急激な変動により、一時的に株式組入比率が100%を超える場合があります。

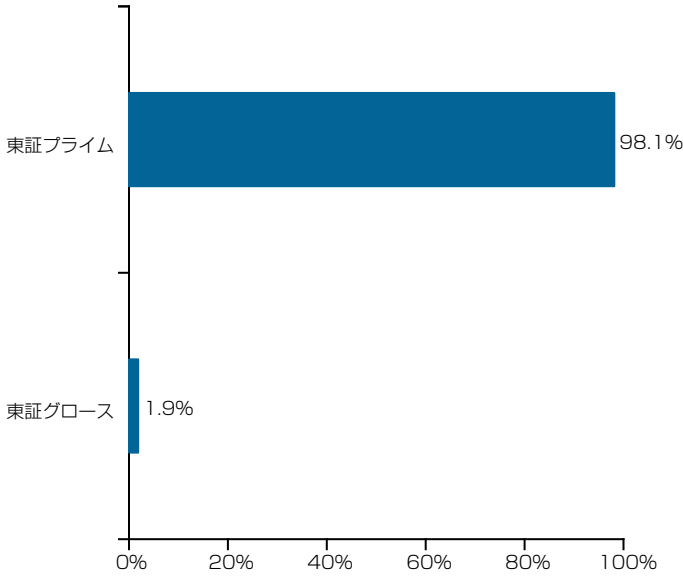
- ・分配金は、1万口当たり、税引前です。
- ・分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

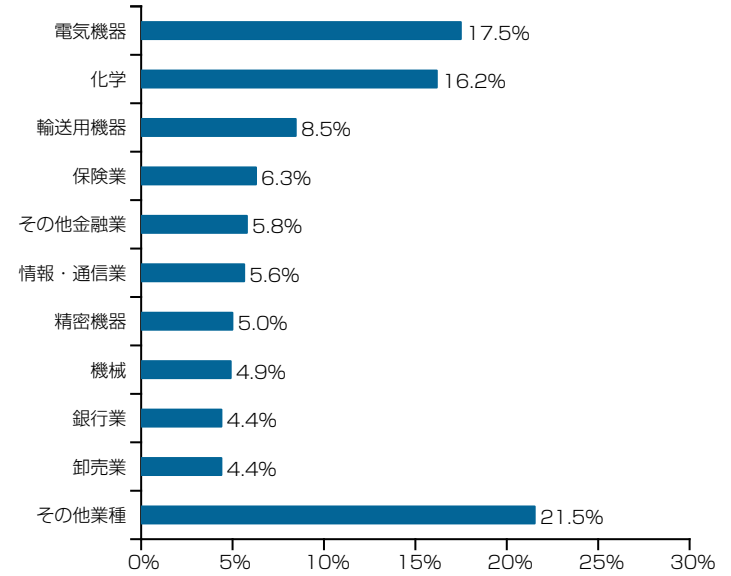
# 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## ポートフォリオの状況

### 市場別構成比率



### 業種別構成比率



- ・「ポートフォリオの状況」はマザーファンドのデータです。
- ・比率は組入有価証券（先物を除く）を100%として計算しています。
- ・比率は四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。
- ・業種については東証33分類をもとに分類しています。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

## 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## ポートフォリオの状況

## 組入上位10銘柄 (2022年3月末現在)

	銘柄			銘柄紹介
	市場	業種	比率	
1	ソニーグループ			半導体、民生機器などのエレクトロニクス、金融、ゲーム、エンターテインメントなど多岐に渡る事業を展開しているコングロマリット。
	東証プライム	電気機器	6.3%	
2	信越化学工業			塩化ビニル樹脂、半導体シリコンウエハや電子材料などを手掛ける大手化学メーカー。塩化ビニル樹脂と半導体シリコンウエハでは世界シェア首位。
	東証プライム	化学	4.8%	
3	オリックス			国内首位の総合リース会社。法人リース事業をはじめ、不動産、資産運用、コンシューマーファイナンス、プライベート・エクイティ投資など総合金融サービス事業を展開する。
	東証プライム	その他金融業	4.4%	
4	トヨタ自動車			自動車世界最大手の一角で、燃費性能に優れたハイブリッド車に強みを持つ。
	東証プライム	輸送用機器	3.8%	
5	伊藤忠商事			繊維発祥の総合商社大手で、傘下にファミリーマートなど多くの有力企業を抱え、繊維、食品、生活資材、情報通信、金融などの非資源分野に幅広く事業展開している。
	東証プライム	卸売業	3.8%	
6	三菱UFJフィナンシャル・グループ			国内三大メガバンクの一角。連結子会社では消費者金融事業などを手掛ける。また、米地銀のユニオンバンクを傘下に持つなど、米国での展開に強みがある。
	東証プライム	銀行業	3.1%	
7	HOYA			半導体製造用マスクブランクスのエレクトロニクス事業、メガネレンズやコンタクトレンズ店舗運営などのヘルスケア事業などを行う。
	東証プライム	精密機器	2.6%	
8	キーエンス			FA（コンピューター導入による工場自動化）機器用のセンサーや制御・計測機器などの製造を行う。生産の大半を外部委託していることや、直販体制に強みがある。
	東証プライム	電気機器	2.3%	
9	リクルートホールディングス			「ゼクシィ」（結婚）や「SUUMO」（不動産）などの販促メディア事業のほか、人材メディア事業や人材派遣事業などを展開する。求人情報検索サイトを運営するIndeedは米国を始め世界各国で業界トップの地位を確立。
	東証プライム	サービス業	2.2%	
10	三菱ケミカルホールディングス			三菱ケミカル、田辺三菱製薬、日本酸素ホールディングスなどを傘下に持つ持株会社で、国内最大の売上高規模を誇る総合化学メーカー。世界シェア40%超を誇るMMA（メチルメタクリレート）を中心に、多様な化学製品を取り扱う。
	東証プライム	化学	2.2%	

- ・「ポートフォリオの状況」はマザーファンドのデータです。
- ・組入上位10銘柄は、開示基準日がその他の情報と異なります。
- ・組入上位10銘柄の比率は純資産総額比です。
- ・業種は東証33分類をもとに分類しています。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

# 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## 運用状況等と今後の運用方針

### 市場概況

4月の国内株式市場は、米金融政策の動向や中国におけるロックダウンの影響が懸念され、下落しました。東証33業種別株価指数を見ると、騰落率が上位となった業種は、主に水産・農林業、鉱業、電気・ガス業などで、下位となった業種は、主に海運業、サービス業、電気機器などでした。

### 運用状況

当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資）は前月末比で下落し、ベンチマークの騰落率を下回りました。個別銘柄においては、がん領域への取り組みを強化している大手製薬企業、大手ゲームメーカー、大手医療機器メーカーなどが主にプラスに寄与しました。一方で、ゲーム、半導体や金融など幅広い事業を展開するコングロマリット（複合企業）、証券取引所などを運営する取引所グループ、半導体製造用の部材やヘルスケア事業などを手掛ける大手精密機器メーカーなどが主にマイナスに寄与しました。

### 市場見通しと今後の運用方針

米国における金融政策の引き締めに関する懸念がくすぶり続けていたところに、ウクライナ情勢の緊迫化や中国におけるロックダウンという更なるリスク要因がもたらされ、世界的な景気後退の可能性を背景とした神経質な相場展開となっています。

銘柄選択の観点からは、コロナ禍がもたらした経済や社会における構造変化から恩恵を受ける企業やこれまでマイナス影響を受けて低迷していた業績の回復が期待できる企業の見極めが必要であり、企業業績の構造的な変化と循環的な回復の双方に目配りすることが重要だと考えます。また、今回の地政学的リスクの高まりを受けて、長期的な構造変化を遂げる可能性がある国内外のエネルギー分野の動向にも注視が必要です。

投資の視点としては、引き続き中長期的な独自の成長ストーリーを有する銘柄に注目しており、重点的に投資している代表的なテーマは以下の通りです。

- ・IoT（モノのインターネット）の普及によって成長が期待される半導体や電子部品などの分野
- ・ITを活用し既存の業界を変革することで成長が期待できるフィンテック（金融とITの融合）、リアルエステートテック（不動産とITの融合）、HRテック（人材・人事とITの融合）、i-Construction（建設とITの融合）関連の企業
- ・バイオテクノロジー、先進医療、医療機器に対する政策支援や市場拡大の恩恵を受けると期待される企業
- ・明確な競争優位性を確立し、市場シェア拡大により中期的な収益拡大が期待できる消費関連企業
- ・普及拡大が期待される自動車の自動運転技術や電装化関連分野
- ・新興国での需要拡大が見込まれる消費財、医療サービス、社会インフラ関連の企業
- ・通信インフラの拡張、ビッグデータやクラウドコンピューティング化、スマートフォンの普及率の上昇により新たな市場の成長が見込まれるインターネット、IT関連のビジネス分野
- ・社会インフラの老朽化に伴う都市機能の強化や更新需要の恩恵を受けると考えられる建設関連企業
- ・新興国における人件費の上昇やIoTを活用した製造現場での技術革新などが追い風となることが期待されるFA（工場自動化）関連企業
- ・グローバルで着実に拡大が見込める「コト消費」の恩恵を受けるコンテンツ・エンターテインメント関連銘柄
- ・脱炭素社会づくりに貢献するクリーンエネルギー、省エネ関連の企業

その他、内外マクロ経済の動向に大きく左右されず、個別の成長ドライバー（駆動力）を有すると判断できる銘柄の新規発掘にも引き続き注力します。

※上記運用状況及び運用方針については、実質的な運用を行うマザーファンドに係る説明を含みます。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

# 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## 商品概要

信託期間：2024年3月25日（休業日の場合は翌営業日）まで

決算日：毎年3月25日（休業日の場合は翌営業日）

設定日：2014年3月31日

- ・ファンドの運用はファミリーファンド方式（注）により主要投資対象である「G I M日本ディスカバリー・マザーファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を通じて行います。
  - ・日本の株式（全上場銘柄）の中から、時価総額にこだわらず、成長性があり、かつ株価が割安と判断される銘柄を中心に選定して投資します。
- （注）ファミリーファンド方式とは、ベビーファンドの資金をマザーファンドに投資して、マザーファンドが実際に有価証券に投資することにより、その実質的な運用を行う仕組みです。

## ファンドの目的：

日本の株式を実質的な主要投資対象として運用を行い、信託財産の中長期的な成長をはかることを目的とします。

## 投資リスク

ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。  
投資信託は元本保証のない金融商品です。投資信託は預貯金と異なります。

## 基準価額の変動要因

ファンドは、主に国内の株式に投資しますので、以下のような要因の影響により基準価額が変動し、下落した場合は、損失を被ることがあります。下記は、ファンドにおける基準価額の変動要因のすべてではなく、他の要因も影響することがあります。

株価変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化、市場における需給・流動性による影響を受け、変動することがあります。ファンドでは中小型株式に投資することがありますが、中小型株式は大型株式に比べ、株価がより大幅に変動することがあります。
銘柄選定方法に関するリスク	銘柄の選定はボトムアップ・アプローチにより行います。したがって、ファンドの構成銘柄や業種配分は、日本の株式市場やベンチマークとは異なるものになり、ファンドの構成銘柄の株価もより大きく変動することがあります。
流動性リスク	市場取引量の急激な増大、市場規模の縮小、市場の混乱の影響を受け、有価証券の注文が成立しないこと、売買が成立しても注文時に想定していた価格と大きく異なることがあります。ファンドでは中小型株式に投資することがありますが、中小型株式は大型株式に比べ、市場での売買高が少ないことがあり、そのような状況に陥る可能性が高くなる場合があります。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、決算中に発生した収益（経費<sup>\*1</sup>控除後の配当等収益<sup>\*2</sup>および有価証券の売買益<sup>\*3</sup>）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも決算期中におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

\*1 運用管理費用（信託報酬）およびその他の費用・手数料をいいます。 \*2 有価証券の利息・配当金を主とする収益をいいます。 \*3 評価益を含みます。

ご購入の際は、「投資信託説明書（交付目論見書）」および「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。

# 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## ファンドの費用〔以下の費用を投資者にご負担いただきます。〕

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	手数料率は3.30%（税抜3.0%）を上限とします。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 （購入時手数料＝購入価額×購入口数×手数料率（税込）） 分配金再投資コースにおいて収益分配金を再投資する場合は、無手数料とします。
信託財産留保額	かかりません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの純資産総額に対して年率1.815%（税抜1.65%）がかかり、日々の基準価額に反映されます。 信託財産に日々費用計上し、決算日の最初の6ヵ月後、決算日および償還日の翌営業日に信託財産中から支払います。
その他の費用・ 手数料 ※詳細は、請求目論見書で 確認することができます。	1 以下の費用等が認識された時点で、ファンドの計理基準に従い、信託財産に計上されます。 ただし、間接的にファンドが負担するものもあります。 「有価証券の取引等にかかる費用」「信託財産に関する租税」「信託事務の処理に関する諸費用、その他ファンドの運用上必要な費用」 2 原則として、ファンドの目論見書の印刷に要する実費相当額を、信託財産に日々計上します。 （注）上記1の費用等は、ファンドの運用状況、保有銘柄、投資比率等により変動し、また銘柄ごとに種類、金額および計算方法が異なっておりその概要を適切に記載することが困難なことから、具体的に記載していません。また、上記2の実費相当額は、実際にかかる費用が目論見書ごとに異なることから、具体的に記載していません。さらに、その合計額は、受益者がファンドの受益権を保有する期間その他の要因により変動し、表示することができないことから、記載していません。 3 純資産総額に対して年率0.022%（税抜0.02%）をファンド監査費用とみなし、そのみなし額を信託財産に日々計上します。ただし、年間330万円（税抜300万円）を上限とします。

ファンドの費用の合計額は、ファンドの保有期間等により変動し、表示することができないことから、記載していません。

（注）本資料における「税」は、消費税および地方消費税を指します。

## 本資料で使用している指数について

- TOPIX（東証株価指数）、東証33業種別株価指数は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など各指数に関するすべての権利・ノウハウ及び各指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、各指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

## 投資信託委託会社

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第330号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ご購入の際は、「投資信託説明書（交付目論見書）」および「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。

# 日興JPM日本ディスカバリー・ファンド

## 取扱販売会社について

- 投資信託説明書（交付目論見書）は下記の販売会社で入手することができます。
- 登録番号に「金商」が含まれているものは金融商品取引業者、「登金」が含まれているものは登録金融機関です。
- 株式会社を除いた正式名称を昇順にして表示しています。
- 下記には募集の取扱いを行っていない販売会社が含まれていることがあります。また、下記以外の販売会社が募集の取扱いを行っている場合があります。
- 下記登録金融機関（登金）は、日本証券業協会の特別会員です。

2022年5月2日現在

金融商品取引業者等の名称	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物取引業 協会	その他
SMBC日興証券株式会社	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	
株式会社 SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○	
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	



## 本資料をご覧ください上での留意事項

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社（以下、「当社」という。）が作成したものです。当社は信頼性が高いとみなす情報等に基づいて本資料を作成しておりますが、当該情報が正確であることを保証するものではなく、当社は、本資料に記載された情報を使用することによりお客さまが投資運用を行った結果被った損害を補償いたしません。本資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社および当社グループの判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、当該意見・見通しの実現を保証するものではありません。また、当該意見・見通しは将来予告なしに変更されることがあります。本資料は、当社が設定・運用する投資信託について説明するものであり、その他の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。また、当社が当該投資信託の販売会社として直接説明するために作成したものではありません。

投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負います。過去の運用成績は将来の運用成果を保証するものではありません。投資信託は預金および保険ではありません。投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託を証券会社（第一種金融商品取引業者を指します。）以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の保護の対象ではありません。投資信託は、金融機関の預金と異なり、元本および利息の保証はありません。取得のお申込みの際は投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面をあらかじめまたは同時にお渡ししますので必ずお受け取りの上、内容をご確認ください。最終的な投資判断は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。